midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

June 2011 No.307-308

６月号の１枚：若柳嵐山のウスバシロチョウ

［巻頭言］森を守る・・・年配の若者たち

”森林破壊と言う負の遺産を後世に残さないために・・・”

”森林破壊と言う負の遺産を後世に残さないために・・・”を行動理念として当会は、活動を継続している。

毎月2回の定例活動「森を守る・・森林整備」を行っているが毎月、凡そ、60人～80人、多い時には100人以上が参加してくれている。参加者の構成は、小・中・高・大学生が50%。女性と働き盛りの壮年、および、定年退職後の年配者が50%。臨時に活動参加する企業・団体の参加もある。

特筆すべきは、常連の年配仲間の「心の若さ・柔軟さ」であり、小・中学生参加者の「自由で好奇心あふれる発想力」、高・大学生の「真理を求めようとする探究心の強さ」である。

例えば、「学生連合・フォレストノバ」グループは、毎回の活動終了後、夏の猛暑でも冬の極寒の中でも、暗くなるまで“振り返り”と名付けた当日の活動成果と確認を実践している。真剣に討論するその姿は、神々しくさえある。若者のその姿に大いなる刺激を受けて、年配者は、「心の若さ・精神の柔軟さ」を失わないで“年配者の青春”を謳歌する事ができるのだ。

森林の未来を憂慮する“年配の若者たち”は地域行政に対し、森林政策提言：「内陸・グリーンハブ都市構想」を提出した。地域行政・相模原市がそれを真正面から受け止めくれたことにより、話し合いを進めている。蛇足ながら、「サミュエル・ウルマン：青春の詩」（一部抜粋）を転載する。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言う。

優れた創造力、逞しき意思、燃える情熱、怠惰を退ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、年齢を重ねただけでは人は老いない。

理想を失う時に初めて老いる。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2011.06

６月　５日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

６月１９日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森

5月1日（第一日曜日）

この日は曇り空で、雨の予報も出ていました。しかし、なぜかいつも不思議と定例活動の日に雨が降ることは少なく、今までに雨で活動が中止になったことも数回しかありません。この日も雨が降ってこないことを祈って活動を開始しました。

今回の活動では、緑のダムの方々もForest Nova☆も先月の活動に引き続き小林山にて土留め作業を行いました。Forest Nova☆は、先月も大苦戦した急斜面での土留め作業を行いました。45度を軽々超えるかというほどの急斜面では土が流れてしまっていて、草も生えておらず、土がむき出しになっています。このように土が流れてしまうのを防ぐために「土留め」という作業を行う、というわけです。普段から自分たちが下りる時にもなるべく滑らないようにして地面を荒らさないようにしているのですが、急斜面すぎて作業後に下りる時も滑ってしまい、多少地面を荒らしてしまいました。

お昼には4年の先輩方がロープを使って木登りに挑戦していました。ロープを使って木を登るのは難しいようで、途中までしか登れず、急斜面とはまた違ったものと苦戦しているようでした。

午後は午前中の土留めの続きを行いました。途中で雨が降ってきてしまいましたが、それほど強くはなかったので、そのまま作業を続行しました。先が折れてしまった欠頂木と先が分かれてしまった木を伐って土留めをしようとしていたのですが、先の分かれていた木を伐倒したら見事に他の木にかかって倒れなくなってしまいました。Forest Nova☆のメンバーは何とかかかってしまった木を最後まで倒すために、急斜面の山を行ったり来たりしてロープで引っ張り続けました。しかし、なかなか倒れず、緑のダムの方の知恵をお借りして、なんとか倒すことができました。

上２枚：小原本陣の森より
下：若柳嵐山の森より

活動後には、今回作業を行った山の地主である小林さんのお宅にて、たけのこご飯やたけのこと手作りのこんにゃくが入った煮物などをごちそうになりました。とてもおいしくいただきました。この時に小林さんのお宅の近くのお豆腐屋さんで作られている豆腐もいただいたのですが、いつもは匂いだけで我慢していたので、食べることができて良かったです。色々とごちそうしていただきありがとうございました。

關根　穂美
（Forest Nova☆）

[定例活動]若柳嵐山の森

5月15日（第三日曜日）

「森とときめく！」

若葉の美しさ、きらめく緑がまぶしい五月の森！。たくさんの若者、熟年者たちで森の中も活気づいている。参加者：学生連合フォレストノバ２０名、高井戸中学校生とそのOB生２０名、生命の森宣言・東京８名、緑のダム体験学校に８名、一般参加３１名。計７９名。午後から都立大・石原先生の引率する１０名参加。

今月は、ＦＳＣ認証の中間審査。朝礼時に矢口部長審査員と佐々木主任審査員の紹介と認証林の意義の概略説明があった（後記参照）

・杉並区立高井戸中学校２０名は、体験学校観察路ルート上の「望星の森とノバの森」の中間点にある、１５年生杉・植林地での整備作業。始めて参加の中学生でも急斜面でも何んその、苦にせず、自然に馴染んでいる姿は柔軟な若者力！。高井戸中OB先輩の指導ぶりに引率の宮村先生も嬉しそう。

・ノバの森も賑やか。ここも急斜面のヒノキ林。樹の混雑する箇所での難しい間伐作業。
掛かり木（伐倒途中で他の木に引っ掛かる）にロープを掛け引き落とす。掛かり木作業は、大事故に繋がり易いので余程の注意が必要。掛かり木作業も皆んなで力を合わせて“ズドーン”と無事成功。ここを通過する「緑のダム体験学校・見学者」たちも大声で“通させていただきマース”と確認し合う。
・何時も孤軍奮闘の黒川養蜂班。
午後から参加した都立大の石原先生引率の１０名が、黒川班長を取り囲んでいろんな質問。待ってました！とばかり黒川会員の日本蜜蜂のお話に、可愛い蜜蜂たちもブンブンと応援。
・生命の森宣言・東京班。午前中に、この森を見学した緑のダム体験学校は、班のベテランから間伐の実技指導を受ける。斎藤学校長の話：自然が師匠、よくよく注意して見ると森が、様々な事を教えてくれますよ。
・森林整備班とお花畑班は午前中、合同で長柄の草刈鎌でお花畑を整備。午後は、バッファーゾーン（沢筋の生態系保全地域）の説明板の設置作業を行った。

伊藤　小夜子（本会、会員）

[報告１]
FSC認証維持審査を行いました

5月15日（日）

５月の若柳嵐山の森定例活動において、FSC森林管理認証の第１回（２期目）の維持審査が行われました。
審査の結果、特に大きな問題は発見されず、認証は継続となりました。

審査内容については以下の通りです。

（１）不適合の有無
前回審査での軽微な不適合１件について、完了を確認。
今回の審査では不適合は発見されませんでした。

（２）評価および期待される観察事項
・フォレストノバの植生調査マニュアルは学生の世代交代があっても活動を継続できるという点から評価できる。
・望星の森を中心とするなみすけの森づくりを新たに立ち上げたこと。

（３）観察／確認事項
・FSCトレードマーク使用規則により、名刺へのマークの使用ができなくなる。（ただし名刺の紙そのものが認証紙である場合は除く）。また、在庫は破棄する必要はなく、新規作成するものから適用となる。
・年間収穫量を活動グループごとに記録し、森全体の成長量を超えないようにする。
・活動グループごとの年間の森林施業計画には年次のレビューと更新に検討余地がある。

（４）その他
渓流沿いのバッファーゾーンの保全及び作業ルールについての文章、地図について再度提出を求められました。また、フォレストノバ植生調査マニュアル、調査 結果（本会ウェブページで公開済み）も提出します。

本会ウェブサイトにおけるFSCロゴ使用申請書類についても手続きを行うことになりました。次回、審査 は2012年に文書確認を行う予定です。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[報告２]湘南の森活動報告

4月8日（金）

この日はかねて伐採しておいた、ヤブラン平付近の枯損木の処理を行いました。１月に枯れたサクラとイヌシデの大木を２本伐採したのですが、懸り木となったまま、放置されていたからです。手鋸で要所を切ってからロープでひっぱって地面に倒しました。結構な力仕事で皆汗だくとなりました。この日は午後から花見を予定していたので、作業は半日で終了しました。

また、４月２３日には雨のために定例作業は中止となり、午後からひらつか市民活動センターで第３回の総会を開催しました。会員２８名のうち１７名が出席しました。組織が大きくなっただけそれにふさわしい業務推進体制が必要ということで、作業の安全確保や生態系に配慮した作業の推進方法などについて、これから議論を深めてゆくこととしました。

一方、山本（明）さんの努力で立派なホームページが完成し、積極的な情報発信が出来る体制となりました。一度のぞいてみて下さい。
http://shonan-mori.sakura.ne.jp/index.html

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告３]フォレストノバ活動報告

４月に入って新年度も始まり、大学には新１年生が入学してきました。

Forest Nova☆では、新1年生を対象としたオリエンテーション(団体説明会)を4月18日、21日、28日の日程で行いました。

今回はオリエンテーションの目標を、現4年生と同じ人数のメンバーを獲得することで、これまでForest Nova☆が行ってきたことを維持し、さらにそれ以上のメンバーを獲得することで、これからも団体として色々な事にチャレンジしていきたい！という思いから「新メンバーを最低4人獲得する」と決めました。
そしてForest Nova☆の事をより多くの人に知ってもらおうということで、オリエンテーションを複数回開催するということにしました。

当初は麻布大学の学生向けに麻布大学にて2回、他大学の学生向けに橋本駅近くの公民館「ソレイユさがみ」にて2回行う予定でしたが、東北での震災による計画停電、節電、建物の破損などの影響で施設の予約が取れず開催が1回中止になり、麻布大学での開催も時間の変更を余儀なくされてしまうなど、直前まで変更を重ねなければならないようなハプニングもありました。

オリエンテーションでは、日本の人工林が植林されたまま放置され、荒れてしまっているという現状と、人工林が放置される事によって起こる土砂崩れや外国での違法伐採などの問題点を説明しました。そして毎月の森林整備や市民祭りなどのイベントでの出展といった、Forest Nova☆が現在行っている活動内容についても説明しました。
また、自己紹介ゲームや終了後に行った懇親会などを通して、参加者同士やForest Nova☆メンバーとの間でより交流を深めることができ、とても楽しい雰囲気での実施となりました。

結果として、18日に9人、21日に1人、28日に6人と今回のオリエンテーションには計16人の1年生が参加してくれました。そして後日ミーティングに参加してくれた何人かの1年生が、Forest Nova☆に加入してくれることになりました。

新しいメンバーも加わったということで、Forest Nova☆はこれからさらにはつらつと活動していこうと思います！

瀬戸　智大（Forest Nova☆）

[報告４]緑のダム体験学校報告

５月定例活動の体験学校の午後の部から、見事な活動体験のご報告です。

A地区でご活躍の方々に、飛び入り参加させていただいた、体験学校の生徒さん達は、山仕事では、一番危険な体験をされました。

昨年の秋から間伐しておいた丸太を、林の中で乾燥（林内乾燥）するため、林の中に積み上げる（りんぐみ）作業です。同時に林の中をきれいにする林床整理という活動です。

木材として活用するため４ｍに玉切りしてあります。太いものは２～３００ｋｇあり、傾斜地の山の中に、崩れず滑り出さないよう土から離して、積み上げるのは大変な作業です。

3～4人で丸太を動かすのは、ちょっと息が合わないと、足や手を挟まれます。傾斜地ですから立っているだけでも大変な所、しかも丸太の上での作業もありました。

重たい丸太も片側だけなら動かせます。先頭にロープをかけて、二人で持ち上げ、後ろから持ち上げずに滑らすように動かしていました。大きな掛け声で大きな力になります。

乱雑に重なり合っていた丸太が、見事に整理されていきました。梅雨時を過ぎると、皮むきが簡単になります。秋までには半分以下の目方になっているでしょう。

初めての体験の方が半分以上でしたが、みんなで力をあわせて、短時間ですっかり林の中がきれいに片付きました。ご指導ありがとうございました。みなさんご苦労様でした。

斉藤　憲弘（本会、理事）

[報告５]なみすけの森づくりプロジェクト、参加生徒の感想から

今月の若柳嵐山の森の活動に参加した中学生から感想が届きましたので、ご紹介します。

僕は、今回の体験がキッカケで２つのことが自分の中で変わったと思います。まず、木のすごさです。普段、何気なく僕たちが使っている木は一本切るのにとても大きな力やら手間やら…がかかるということを体で実感しました。

次に、自然のすごさです。日が当たるところと当たらないところの差がとても大きいことや、草木の生分の強さです。

これらのことが今回、分かったことで、僕の木や自然に対する考えが変わったと思います。いい体験ができてよかったです。（３年男子）

ぼくは生まれて初めて自然に関わる活動をしました。今回の活動を通してまず感じたことは自然は繊細だということです。そして、自然の生命の循環が当然のようで実はとても素晴らしいことだと思いました。そして、自分はそんな理想の森に近い環境をつくっていこうと心に決めました。何もできないから、やっても意味がないから、そういってあきらめるのではなく、少しでも希望をもって努力していきたいです。（２年男子）

僕は今回初めて参加してみて、自分達の手であんなに大きな森が、きれいになっていくことは感動的なことだと思いました。森で間伐をして、森が豊かになることは生物多様性が増えていくことなので人もまた豊かになります。今回の作業は人と人が助け合ってつながなっていくというものでした。僕が一番分かったのは森の大切さです。森はすべてとつながっているので今後も、しっかりと協力して森を守っていきたいと思います。（３年男子）

なみすけの森づくりプロジェクトに参加する中学生

[事務局からの
お知らせ、お願い]

６月、若柳嵐山の森活動後に定期総会を開催

６月の若柳嵐山の森定例活動後に県立相模湖交流センター研修室にて１６時から第９期定期総会を行います。正会員の方のご出席をお願いします。また出席なさらない方は委任状の提出をお願いします。また、総会後の懇親会も予定しておりますのでそちらへの参加もお待ちしております。

定例活動参加時の服装にご注意ください

暖かくなり、森の中でもハチの活動が活発になってきています。特に例年スズメバチが確認されており、会としても４月から５月にかけてスズメバチトラップの設置を行ってい、かなりの数のスズメバチ（おそらく越冬した女王蜂）を捕獲、駆除しました。しかし、森にいるスズメバチ全てを取りきれることはありませんので、定例活動の参加時は黒系の服装をさけ、白やグレーなど明るい服装での作業をお願いします。

望星の森を中心とする「なみすけの森プロジェクト」、ニュースレターを発行しています

本会が管理する若柳嵐山の森で活動する杉並区立高井戸中学校が中心となっている「なみすけの森づくりプロジェクト」の活動を紹介するニュースレターを発行することになりました。嵐山の活動だけでなく、高井戸中学に隣接する「三井の森公園」での活動なども紹介していきます。生徒の顔写真など個人情報にからむ部分もあり一般公開はしない予定ですが、関係各所にはお配りしたいと考えています。また、嵐山の定例活動にも持参してくださるとのことです。

デザインが本会ニュースレターと似ているのは偶然だということです。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミニテイ、
マルモ出版